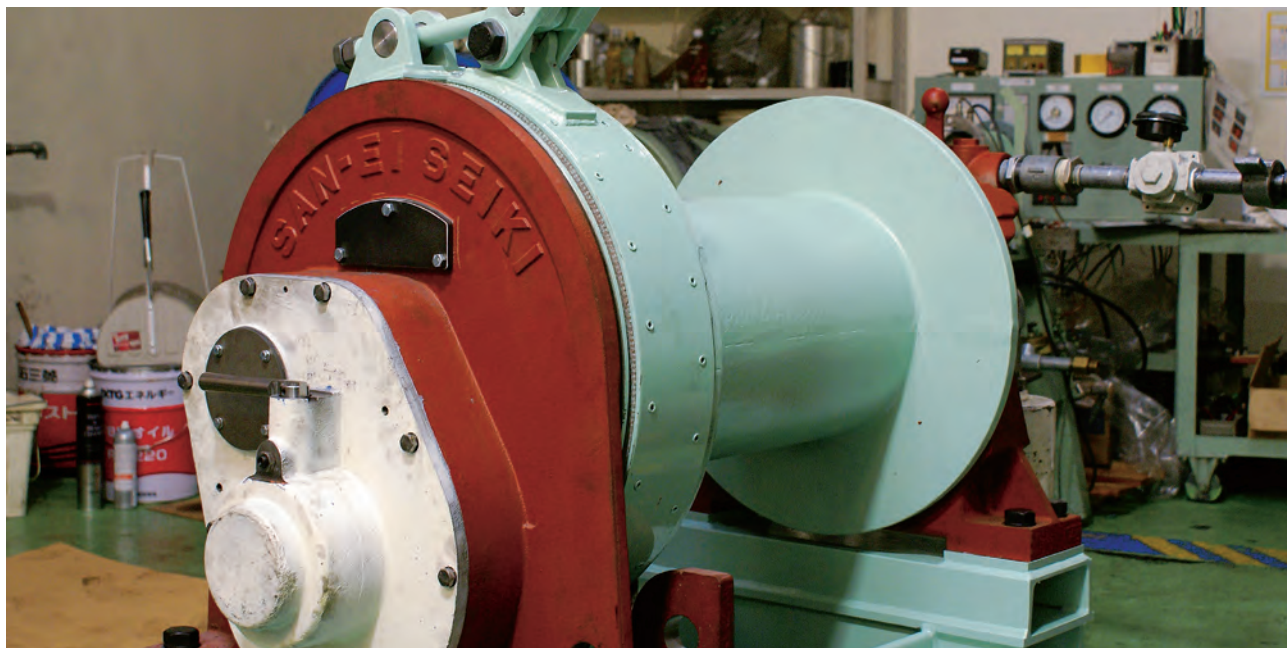


株式会社三栄精機製作所

〒969-1619 福島県伊達郡桑折町字仮屋1 TEL. 024-582-3144 FAX. 024-582-3521

●代表者：代表取締役会長 山本悦子 ●設立：昭和42年4月
●資本金：5,000万円 ●従業員：57名 ●URL：http://sanei-air.com世界を視野に、最新のCNC旋盤で
ものづくりマインドも高みを目指す。

エアウインチ完成品

きっかけ・課題

北海道・小樽が発祥の地である当社は、空圧機器の専門メーカーです。圧縮した空気を動力として用いる技術を培い、エアモーター・エアホイス・エアウインチなどの汎用機器、さらに特殊仕様の製品を国内外へ供給しています。とりわけ近年は、エネルギー分野からの需要に応え、LNG（液化天然ガス）ポンプ吊り揚げ装置のシェア拡大も顕著です。エアウインチは、オイル・ガス事業所の防爆エリアで荷役に使用します。こ

のほか多様なラインアップを擁して開発・設計から製造、販売、保守点検サービスを自社で完結できるアドバンテージは揺るぎません。しかし昨今は短納期・低価格をセールスポイントに、新規参入で攻勢を強める海外メーカーとの競争が増えてきました。最新CNC旋盤を導入して加工精度と生産性を高め、オリジナル製品に宿る至高の技術、ものづくりマインドを次世代へ継承していく。それが、世界で戦うための鉄則です。

INTERVIEW



次代のため、今できることに一生懸命

株式会社三栄精機製作所 取締役生産部部長 向山正良

このほど導入したCNC旋盤は、未来へ向けた象徴的な存在です。空圧機器に特化し、北米・中米・東南アジア・中東などへ「独自製品を供給し続ける技術力を、次代への糧に」という全社的な意思が込められました。研究開発、設計と連動する工程で、新しいマシンを活かす若手社員のモチベーションに期待したいと思います。福島工業団地（福島市岡島）に工場を設けるプランが進んでおり、2020年1月に着工、同年12月に完成する運びです。LNGポンプ吊り揚げ装置への需要が高まっており、あらたな製造拠点が中核機能を担うことになります。技術職、営業職、いずれにしても新戦力の登用に前向きなので、どしどしエントリーして欲しいですね。

実施内容

数値制御の互換プログラムを活かして
ムダ工数の短縮、作業負荷の軽減も

空圧の伝達をつかさどる重要部品の1つが、ドラムです。その重切削ならびに精密加工を施せる大型工作機械を導入して作業の平準、作業負荷の軽減を図りました。最新型マシンの特長は、他の数値制御旋盤とのプログラム互換性を持ち、切削条件の入力・変更ほか段取りに於ける「ムダ工数」を短縮できること。パワフルに作動し、高度な加工精度をコンスタントに見込めるので不具合や損金の発生を抑えられるなど、品質管理という点でもメリットに富んでいます。

事業の成果

テスト稼働を経て、グローバル品質を高める

初品加工を行う際、これまでは準備する刃物工具類（バイトなど）の位置精度補正にルーペなどを使い、目測で行っていました。導入した工作機械の最新機能により、機械が精緻に検知して補正するので段取り工数時間が大幅に短縮しました。加工プログラミングの入力および補正作業、切削加工時間にも同様の効果が表れています。

さらに、大型部品（外径500mm 長さ500mm）の切削を内製化して社内工数確保が実現でき、機械稼働率が高まりました。

安定した製品部品を加工できる社内体制が整ったことで、従来では外注せざるを得なかった部品の外注費削減とコストダウンを推進でき、他社との競争力を強め、販路拡大につながりました。

若手が体感できる、ベテランの域。
人財を育むツールでもある最新マシン

新しいCNC旋盤の導入を契機に、20代らの若手へ技術を継承していく機運が高まってきました。その存在は製造環境を進化させ、後継世代を育成する教育ツールとも位置づけられます。旧来マシンの操作者が限定され高齢化したのに対し、汎用的にアップデートされた加工プログラムを活かしながら技術レベルを追求、安定した精度・品質を実現できるようになりました。周辺機器と同規格のインタフェースなので操作が簡便で、プログラム入力の手間も省けます。



FUTURE OUTLOOK

グローバルな成長分野へ、経営資源を投入する



空圧機器は、当社の代名詞です。その原動部・エアモータは、手に載るサイズから数100kgクラスまで多様で、出力は0.1kw～37kwの製品レンジを保有しています。熱・水への耐性に富む空圧機器は製鉄所や製紙会社、さらに防爆エリアを設けている発電所や化学工場にも納められています。電動式や油圧式の動力装置に対して仕様・品質・安全性・サービス体制の総合力で、優位なポジションにあると考えられます。しかし、当社と中韓メーカーなどとのシェア争いが地球規模で展開されつつあります。こうした局面に臨み、保有技術や生産体制の未来シフトを図り、人財にも投資しながら戦略思考を深めるビジョンが掲げられました。国際経済の動向、アメリカの通商政策に着目すると、北米向け・エアウインチの出荷は増加する見込みです。特に1～2tクラスのロット生産は、短納期対応に向けた独自ノウハウで商機が増すと期待できます。